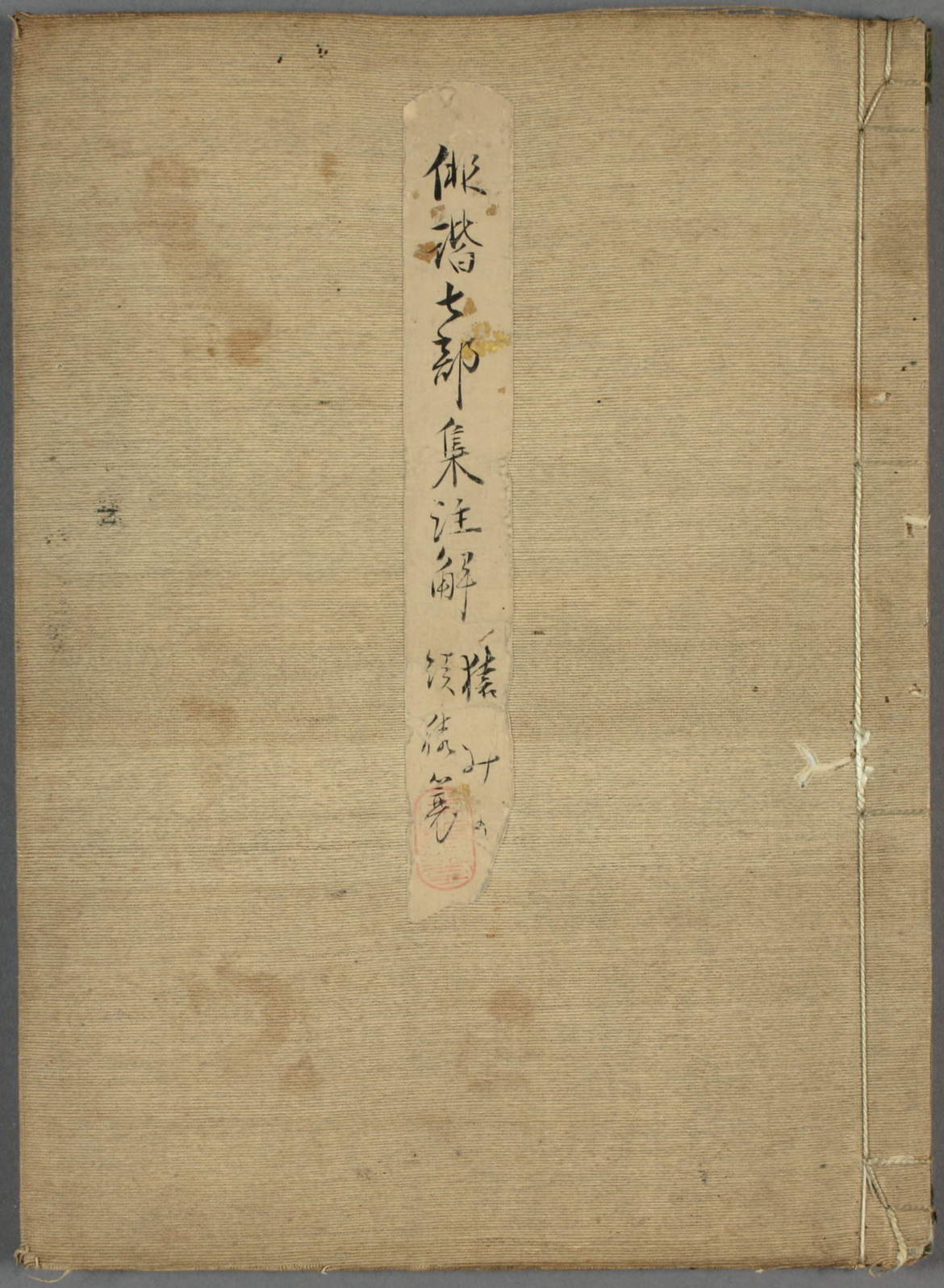

俳諧七部集注解
猿蓑

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七徳
仁義禮智信

恩良恭倹譲とよ
ばれる

信西法師の晩年の事
より上西門院の御所
へまゐられたるに
人々いつくしみあ
へりしかども
かゆきくれぬ
とかくしつゝ夏文
者こゝろの文字を
仁義礼智信の五徳
とよぶさしつゝ

皆人を作りたる
西川人の模索ぶり
くいて

を有する人を五徳といふなり
次人をうしなひ
なり彼西川人は骨
て人を作ることをこゝろ
ある筋を作ることを
ゆきて人を成て行れ
ども五の輝かるゝを
法れをうりうる作る

五のもつにアイウエオ

此五をよく知れば
ひとをはかりてしまを
あらしめ此五を面して
をと説のお意作なり
ゝいろいろ義自も
此しをなしと云

真の小義をもつ
たるをはかれ
文盲と知さ
小義をもつけ
不知自ら説の人なり
れに伝なる方人暴て
威者なるをもれ
自ら説の人なること
ソの言

五徳の輝かるゝ
法れをうりうる作る

只謝世の魂れ入
ゆりかのとえ初こ
我翁行脚の時
いつの時か吟輝をおの
をアイウエオよりひきく
ゝ
伊賀越一帯山中
猿小義をもつて謝世の
神を入をひれた

椿養集巻之一

久し

初しぐれ椿小義を作り　芭蕉

あるじやけしの椿の枝の秀　京角

時雨きや蓋ひらめく前の　千那

義人のしるせし椿　丈竹

錢もらの椿振うられし　正秀

旅宿やひとつ時雨を伝ふ　史邦

舟人よぬるを待て　尚白

伊吹より焼て来る

奈良の隙の一時雨　曾良

山城の木幡のさくら　元北

花もてる春の宮路　飛那

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

送本多八秘書赴杜相公幕　南極一星報　小斗

今朝云　南極一星指秘書　越石也小斗長

安城名

小斗は云城なる星の名なり　君臣の名を小斗城なる云

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

長崎

旦暮　古井　イカ　探札

高白　エト　鹿苑

凡帆

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文艸　千那　孔北　木節　文艸　路通　曽良　杉風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

裏表の句慨

雲の峰いくつくづれて月の山　其角

涼しさやほの字なまりの国言葉　羽紅

秋の来る鹿の音ばかりの旅　如七

ひとりねの我ぬけてゆく秋の哀　去来

[illegible]

[illegible]

[illegible]

長和　その秋や夢迷ふをけぬ蚊帳

玄茅　うす墨の一ぬぐ雁の名

同　ぬぐてのまうけやぬぐの

羽紅　たゝ一やまのをれる

牛角　やりれて又やさしの年の春

路画　いかゝと人ふれつゝの春

杉風　金のれ砧を待の夏ぬ

長和　月次の仕切仕切の年

仕月　仕切と吟

一云　一云の仕切月

云の月の仕切

一云　又いとゝの

一云　一云の月

夜井云　千角やり戸又や

とゝ一とさ

ゝ月　なのゝ年俳

乃ゝ月ふ骨角の

上ゝ砧を

月明の西おとしや

なのゝ月ゝ時分の

乃ゝ月ゝ

月の西おとし

時分

月明の西おとしや

時分

月明の西おとしや

猿蓑集巻之二

夏

月明の西おとしや　千角

夏ゝ月ゝ　杉風

時分　芭蕉

時を横ゝつる川もけよ　芭蕉

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　尚白

時分　何もゝ紀　野ゝ門　梅　凡兆

ひゝゝゝゝゝゝゝゝ　智月

時分

月明の西おとしや

時分

月明の西おとしや

時分

月明の西おとしや

[illegible]

角橋　史郎

[illegible]　羽紅

[illegible]　大芝

[illegible]　玉井

[illegible]　奥良

[illegible]　谷良

[illegible]

旅館在せて在事をうん　西水

一さうり

四月八日諸恵母墓

[illegible]　き角

[illegible]　今峯

[illegible]　茂人

[illegible]　旺頑

[illegible]

杜國

[illegible]

[illegible]

起きの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

明石夜泊　芭蕉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

化北

不節

史邦

芭蕉

中将実方
一条右大臣師尹公の孫
侍従実好の子
右中将従五位下奥州
長徳四年二月
任国下向
これ行成と口論
ありしかの人
実方の塚に芭蕉
ありしとぞ

蔓延

つたの謂深しき雨

奥州名所の部に文中将実方の
塚といつてある所は
一里ばかりたらの方
なりとぞ
行成伊勢の
ひとりあるべし

芭蕉

それ郷をてらす
主ひかる

つくりもたてあり切り口雨

吉年

髪剃や一秋よりは月雨

凡北

日の道や葵傾く月もあり

芭蕉

涯知や名もさびしき五月雨

羽紅

七十余の老翁
かたちはいとしわかく
いとしわかくして
髪白くいはれなし
人とはかりをけるを
ただちふひとり
五月雨の
ふるとも
ふるとも
ふるとも
ふるとも

実方の歌に和歌とつかひ又
からうたとも
いへり

漢名 向日葵 一名 大芙蓉
葵と云はいとをかしの
加茂の二葵ふるきを
ただちふひとり
五月雨の
ふるとも
ふるとも
ふるとも
ふるとも

[illegible]

人間七十古稀

二月八日　二月あり　十句

百姓も麦ふみてる　茶摘哀　去来

麦ふみて　茶山一ぱい　雲雀　正秀

[illegible]　海カ

[illegible]

麦つくの[illegible]　田植　智月

麦と共に[illegible]　山茶花　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

貞角　文芋　嵐蘭　探志（セ）　梶市（イカ）　広水　千代　巴蕉

白雨や江戸の名残の日ぐれ　史邦

青苔に蓮池邊

白雨や一粒の稲あるうち　嵐蘭

日焼田や時々降る雨の音　乙孔

ひのり花さく磯の藏　化北

水無月も果つる花菖蒲　同

ひの国や乙孔の笠の長　正秀

蘇まれい髪の長　本茂

牛の天満宮のことを
たずねしこと
牛は五十年にして
[illegible]
[illegible]

宗次桜みの頃の時
一句入集を願いて
松白吟
[illegible]
[illegible]
[illegible]

猿蓑集巻之三

妹

[illegible]

[illegible]

不知
撰人

[illegible]

[illegible]

杉風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]に従て
[illegible]中[illegible]
[illegible]

加賀の今昌寺に招き

[illegible]秋風さくや[illegible]の山　曹良
[illegible]中[illegible]の[illegible]の[illegible]と[illegible]の風　山川
[illegible]中[illegible]今[illegible]の秋の風　凡水
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の起あり　去来
[illegible]中[illegible]の[illegible]　野童
[illegible]中[illegible]の[illegible]の[illegible]　凡水
[illegible]中[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]　同
[illegible]中[illegible]　杜国
[illegible]　去来
[illegible]桐[illegible]　風麦
[illegible]の[illegible]の[illegible]　及肩
[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]　杉風
[illegible]　千那

[illegible]　妹鰹雨　史邦

[illegible]　旦菓

[illegible]　子尹

[illegible]　羽仁

[illegible]　化北

[illegible]　去年

人の駅の心にやとゝ
[illegible]
[illegible]　菓補

横ト天秤棒

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伏見の城に花を園菓子
ひらして園子の紙に続
そ後無とはいくとも花を
飛せり

加茂に詣 老て涙のかかるかの人の
かるこのかーのの袖を
つきもしらしーを

松風に袖をかたの
袖なし袖屋の
かーーの

月に袖やかたる 晴の上 史邦

古歌の二條かかりの
とうとうとうとう

霜のかに松遠る秋月 卓袋

大内の一月の秋 乙信

京流家の月清中 丈字

吹風つれの東 こそ月一 几帳

無しこそ月の面の 尚白

向のとき月に契る 曽良

元禄三年つるの渡る
月をうとし氣比の浦
詩歌作り人の古例なし

月清 松川のもとる 砂乃上 芭蕉

仲秋の望摘を送辞 摘手紙

ーーの月もこそ遠 去来

明月や表のもの 芝の木原 昌房

氣比の明神に詣ての
一ノ宮にて仲哀天皇を
祀る極り三世の人丸
奏紀の書にてみつる
芝を刈砂を高く浜を
かそこにて金沙紙の
さてこそ去例今
れし神社の砂を
為ふを極りの砂
とかな

月ゝれば人の旅ゝ哀れ　明紅

信濃のいもせの旅の袖ぬれ　尚白

初しぐれや時雨の宿の気遣ひ　元北

一戸や一夜もやどる人　去来

秤の移りて月の出ぬ　越人

深草や小くらき蓮の花　正秀

あやまりて人をさそふ　蘭山

一鳥不啼山更遠

行く春や鳥なき魚の目は涙

大和初瀬にて

一戸南部の地名

きぬ〻〻に貴賤色とる

和名抄　又きぬ〻〻

きぬ〻〻さそふ水の

王安石　照の下に計る人をさそふ

菖蒲根刺竿給日

一鳥云

里祭に出ぬ子もあり

〻〻出られいく一

天と地と〻〻と

やどる天の川

星合に天の川

京洛にて六月三日

おのれひとり杉かゝ小

ひつゝむ柏もそよぐ星祭

旅すゝ神のつゝ合杉の下

柳ふるや信玄の高名畑

上行く下くるや秋の色

鶏鳴初比も寒さ

初雪の降へる蓮の花石

茶をまゐる坊主の角

元北

曾良

千里

路硯

元北

半残

尚白

史角

[illegible]

[illegible]

[illegible]

牛の角

[illegible]

猿蓑集巻之四

春

梅咲て人の母の悔もあり　露沾

上臈の心底をもしらぬ

梅ゝ山路踏伏て大つまも　去来

もとゝゝや糸又星に牛の角　句空

夏

梅ゝや砂利に成す春の奥　土芳

一番に山吹を入人

大の字といふ詞を

茶筅といふも大とん

ゝゝ翁の発句を

[illegible]

せゝゝ一言葉の

おゝゝ[illegible]の早木の

詞をも入ふん

はこ話

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百八の鐘とうちはてて又一夕ひかの梅　嵐蘭

百八のくるて遠ひや園のむめ　其角

[illegible]　去来

世界や[illegible]　史邦

大川市やとまる漕[illegible]　嵐蘭

[illegible]　如行

百八の鐘とうちはてて

百八の鐘

諸行無常　是を

[illegible]

[illegible]

一[illegible]二十七[illegible]

[illegible]字[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蜀の杜宇と云
古代と以て詞を美
くなりて年一年を
古代中和心に成
和の一字を人に教行の
涙を懐ふ（なつかしく）
人との敦風を修
四季の人文
をうつ
をうつ
をうつ

ひとへ　長さ一枝二枝に　路面
ものもいわず　常のあり方を稲之條　唖水
荒蕪ふる　家に老のかなしさ　元北
ここさわぐ　今や紅のいとの花　狂雄
夏雨や　花のかなしさ　荒雲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

臍いろ人を

きたを花

白根ゝ嶽いが咲の
白山

こゝゝ女

水ゝの花を夏

白雲ゝ夏の雲出

黒人の臍地ゝゝ国ゝ北　荒雄

地の花を一枝夏の雲のき　ナカ山中　岩筋

乘者切ゝ白根ゝ嶽ゝの花　桃妖

いろのゝゝを　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　イカ　岡扨

日の光やこゝゝゝ一の紅ゝゝ　珠硯

芋鞍好ゝゝ　ゝの花の色　土芳

岡の花や黒ゝゝ　修衡

幾ゝゝ高ゝ高ゝ高の　文世成

ゝゝゝゝゝゝゝ

ひとり行

黄白吉野の行つゝ

ゝゝゝゝゝゝゝ　ゝ山ゝ山ゝ　ゝゝゝ

修人ゝゝゝゝゝ

長岡ゝゝゝゝ　ゝ　ゝ　

畫讃

芭蕉

東五

羽紅

清安坊氏

利貞

キ角

尚白

化北

丈芝

史邦

千那

葛城の神をとどめる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

道灌山のちる　荒蘭

羽紅

北枝

九水

普和

大和り聊乃き

探九

智月

山川

武之

本百塚

丈之

和漢朗詠集　源為憲詩

白居易詩

鶯詩示劉叟句中

喃々教言在一々刷

毛衣

刷（カヒツクロヒ）

一物も

白雪

芭蕉

元禄

史邦

芭蕉

湖水惜春

芭蕉

無言の行者と法師と
あり、只無言のみ
[illegible]
年の更に宣明を終
[illegible]
る

[illegible]
ふきたれひつぢの
[illegible]

東保右馬

[illegible]
[illegible]
[illegible]
法師堂裏に

[illegible]
方[illegible]
小の方の間、[illegible]
[illegible]
[illegible]

かきあつる墨磨ばかりし姉屋に
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

邦
北
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

水前寺に肥後熊
[illegible]
[illegible]
水茎を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]句の姫人を添ふ　　やとぎの[illegible]　　邦
[illegible]の[illegible]の者　　大[illegible]の[illegible]　　北
[illegible]　　[illegible]　　[illegible]　　

芭蕉　九

化水　九

史邦　九

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元禄四年の創作　京

[illegible]

市中い物の匂ひやみの月　化水

あけ[illegible]の[illegible]　芭蕉

二度とも異さ絶えて出て　去来

[illegible]　化水

[illegible]　芭蕉

[illegible]　去来

[illegible]

山さくら　一すじも
ちるあらしの心かな
きく[illegible]　川素

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天平寺にて庵居の
夏名し

戸障子もつかぬひの暑さかな　北

こりこりと蚊を作る日暮　北

ちりさと人の起　初秋　意

ゆくし蓋のあり夏羊桃　北

笠庵に坐をみたしおやすみ　意

いのちみじかし撰者のさま　玉

いのち

玉歩吟、四月のあと和歌の
要を和と紹介いと所
見出しを西行法師
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

夏の雑詩集
[illegible]
百後の果をたれおれ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
自悔せ[illegible]

さらし　北

浮世のうきを吟ず　意

[illegible]　玉

はかなさ　北

[illegible]　意

[illegible]　玉

[illegible]

[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

芭蕉　十七

去道　十二

[illegible]

月[illegible]

述斎

元禄三年　千秋　京

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山家集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

すき間なき女の紙あてたる
恨のなく　水
夕月夜見の音のみの山陰の
人もつれなくあらるるの水　北
うらやましき自慢のなき
水　玉
又もあるまの命を永むす
恨る四のまやまに咲きよき　北
加茂の社のやしろの社
北　玉

花心のけの
けれる人を恋りと以
長歌をいれ紙にけ
を書をして論ぜさせ
時正の見をもとせる
手授より起る事にて
前の言にけれて
前会仕をそる仕をそる
三人をもうまるまるまる
して東所　加
仕れをいいのれいかに恨の論い
東論をみのるるとせいいるとは
比一云　これ云事　法所の論にて
只理屈をもとつかあと　家を
仕花

花心のけの
けれる人を恋りと以
長歌をいれ紙にけ
を書をして論ぜさせ
時正の見をもとせる
手授より起る事にて
前の言にけれて
前会仕をそる仕をそる
三人をもうまるまるまる
して東所　加
仕れをいいのれいかに恨の論い
東論をみのるるとせいいるとは
比一云　これ云事　法所の論にて
只理屈をもとつかあと　家を

恨の論の論の論の論の論
三人をもうまるまるまる
して東所　加

芭蕉

水れ

蓮れ

元禄四年三月廿日　近江

餞乙州東武行　芭蕉

二階の二階の月　乙州

二階の月　芭蕉

出羽行長の長山城内長谷と
[illegible]
抜きしと云れて内長谷を
[illegible]
知らしと云ふ所中に
[illegible]
[illegible]
[illegible]

故やらうの路にくも生す　四男
稲の葉よりの力なきこの世　硯
月の初よりの物思ひ　芭蕉
内長頭うて　吹ふいれ　芭
和の刈の[illegible]
すきまの初の方門[illegible]　男
[illegible]　芭
百古の一方　智月

[illegible]

これは[illegible]
[illegible]
云　[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
内海と云　[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

懐[illegible]　秋の月　化水
[illegible]　[illegible]の[illegible]の面　芭
[illegible]の柳[illegible]花の[illegible]　去来
[illegible]　水
[illegible]　[illegible]部[illegible]　[illegible]　[illegible]　

大膳

大膳よりはなれて別の意を

あはれ紙の風雨はなを

小刀の蛤丹なる弼之を

棚なる大きの夜

こゝに打るゝ波の海

もるゝ月の光かゝるを

付文をくる　破扇

神さびたる月見

殘

芳

殘

岡風

搖籃

風

風

紙

小工所て律師と云ふ

大笑者と云

こゝ

こゝ

こゝ

祖翁より伝授の文
三通りて姥の一通は
其師等より中比
一通は城主の一通は
什伝寒葉と也

乙孔　五　土芳　三
珍碩　三　園風　三
京男　三　猿雖　二
智月　一　寂蘭　一
凡兆　二　史邦　一
去来　二　野水　一
正秀　一　羽紅　一
半残　四

石山寺は近江州瀬田の南
にして国分山瀬田より
石山を見たるよりは
是なり一里半ばかり
是なりと山岳問山に法華堂と云
元正帝の勅願にて
春慶建立所なりと云
国分寺は聖武帝の
御宇創にして二十年に
建立せしもの今近江州の
国分寺頽廃して名のみ
残りて其跡微山の麓
又山の中腹にも残
りしといまは跡もなし
唯一神社と日吉山王の
神体にして仏像を
安置せり

猿蓑集巻之六

幻住庵記　芭蕉翁

石山の奥瀬田の辺つゞきに
国分山と云うれる国分寺の名を
伝へ侍るべし　栖雁の泊を仮
に宿とす　翠微に登ること三四百歩
唯一神社と日吉山王の
神体にして仏像を
安置せり

西部より西景清の徒
二度相朝の後以仲況非
限又無元別奈路と祈て
表の神と祈 [illegible] 祈と
家を仲況と神仏を
祈て表裏陰陽を明
説を設おたると [illegible]
と云
祈さい上人とかいそ [illegible]
(又 [illegible] て [illegible])
和尚 [illegible] 同共慶

[illegible] 経塚堤
[illegible]
柳の [illegible] と [illegible]
[illegible] 仏
[illegible] 四水より
[illegible] 記と云
仏信を人に同るり [illegible]

[illegible] 深山 [illegible]
天和元年中二十年歳 [illegible] て [illegible]
[illegible] 富 [illegible]
[illegible] 文後
[illegible] 佐同
[illegible] 新改
[illegible]

[illegible] 又 [illegible]
[illegible] 十 [illegible] 五十 [illegible]
[illegible] 桐生の
[illegible] 奥羽象潟の名き日
[illegible] 西 [illegible]
[illegible] 言 [illegible]
[illegible] 北海 [illegible]
[illegible] 蔵 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山中亡軍樵唱を聞く図

木樵の歌樵の山河は平安なり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二祖恵能禅師の
詩孫之
吾三十年宗祖
元穂寄雲天詩
先逢佳景景惟
惆悵西地古傷
李白贈杜甫詩
飯顆山前逢
杜甫頭載笠
日暮手為問緣
何太瘦生只為
徒苦作詩苦

里のもの、こゝの所ていのもての稲を
あ[illegible]先の[illegible]畑ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]永
[illegible]農談日[illegible]山[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]月を[illegible]
新を[illegible]畑を[illegible]國雨[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
閑寂を[illegible]山[illegible]
[illegible]

白氏文集 十七
賢愚共零落
同 九
詩役四瞑神
酒酒三冊円

をいとゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
後に地さ身の科[illegible]
[illegible]
やゝ一[illegible]ゝ[illegible]祖宗の龍文
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

題芭蕉翁国分山
幻住庵記之後

元禄庚午八三年
芭蕉翁幻住庵に住る
年也
此書大章と云
伊賀松尾の俗者
就尚を晨風と云
号称ス
向井元端の子也
震軒向井元端字
履信号仁焉子又
向震軒去来号

何世無隱士以心隱為賢
也何處無山川風景因人
義也間讀芭蕉翁幻住
庵記乃識其賢且知山川得
其人而益義大可謂人
子山川共相得焉延作鄙
章一篇和歌之曰

琵湖南分国分嶺

結句因君の二字を以て師友の
[illegible]と知るべし
震軒大学者云い推量の
説

満山錦繡
[illegible]

具ハ供具也草ハ草稿

元禄庚午仲秋日　震軒具

古松欝々緑陰清
茅屋竹林繞数間
内有佳人獨養生
満山錦繡輝山川
風景依稀入詩域
此地自古富勝覧
今日因君尚益榮

北九州日記

四月廿日　晴

岩梨ハ常の梨ニ
異候事一説
依二テ初夏の事ニ

[illegible]の形と作り
[illegible]
[illegible]湖
[illegible]
[illegible]宏利ハ[illegible]
[illegible]のあ
[illegible]
[illegible]

四月廿日　晴

[illegible]
[illegible]の跡ある[illegible]の山
[illegible]一時水鈴
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春の移りをとゝなりて

一袋ゝれや紅のこゝろ茶　之道

生音

一貫入ふしさいうや（おーたゝうこゝろ）　喜町（ナカサキ）

メ三ヶ月　梅木の実　一ツ　及肩

茶筅御掛

秋風や四ふしのくらゝゝ　尚白

野蓑

友いなし

羽紅凡水の高し

ゝ雨ふるまゝあつけの心ゆ　北枝

木陰ゆく傍ゝ蓑の花　木蔵

ゝ紙ゝ蓑

蛙ゝこゝ丁は生花哉や　秋の雨　蔵

いなむらをゝ俳の古蓮　知月

石山やゆゝ星ゝ妹の風　羽紅

柳の絮ゝまれて吟ずゝ　昌房

四ゝいゝゝゝゝゝゝゝゝ　何処

[illegible]陣
両名一物也

[illegible]越人

越人と同〻訪行て

蓮の宮の供奉して越人菴に

唯[illegible]等哉

[illegible]

[illegible]あり[illegible]

同友　[illegible]蘭

[illegible]　曾良

滑稽は古一個器の名也
漢書に酒器を設て
長を飛觴とも
滑稽とも後世これを
俳諧と云史記龍傳
孤案々云滑稽猶
俳諧
林間録云唐宣宗中戎
大中八年交南山に到り
僧を訪ひて定を
問ふ一日猿を[illegible]仏衆
衣を竊盜を安堵を
猿を従て坐定を
問ふ脱衣を[illegible]者を
今石猴猩の語を

孤腋白衣は狐ノ口キノ下ノ毛ニテ織ルカハコロモナリ
價千金云云

跋　韻は韓ノ誤ナリ

猿蓑者芭蕉翁滑稽之首韻也
非比彼山寺偷衣朝市頂冠笑
只任心感物写興而已矣洛下
逸人凡非去来随翁遊学棲館
竹窓躍筆凌節斯百歳屬掇
此集玩尋無己自謂絶超狐腋白
衆者也於是四方嗤友憐々往

本文ドウリトシテ仮名ヲ付ケタル誤

憧々今のうちなりて
往年の俗さとうとき
易云
憧々往来明從
爾思

毘八兄也コノヤシ
いふこと 仲八次也
俗ト中兄ト云ふ同
東坡今年ノ歌
無言細識都不擇

来或千里寄書々中皆有佳句
日蘊月隆各程文章然有昆仲
騷士不集録者索居寓栖為難
通信且有旋倪婦人不琢磨者為
言細語為喜同志雖無全其域
何棄其人乎哉果分四序作六
卷故不遑廣搜他家文林也 維
時元禄四稔辛未仲夏余拙

歌氏要覧云
柏行俗名
元陽安信
俗名拙陽
杖をつもつて

風狂八風騒と
いふと同
明神八東下のつゝきに
神八俗名を以
江行八小向八郎左衛門と行の
門人也 名を出八云行
なるべし

錫於洛陽旅亭偶會北来吟
席見寓記此題昏尾卒援
毫不揣拙庶幾一蓑高張有補
于詞海漁人云

風狂野衲
丈竹漢書
正竹書之

京寺町二条上ル丁
井筒屋伝兵衛板

四雨を柳をたをるとて

續精選集巻之上

芭蕉

[illegible]

八れ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花の家を小花
山花ロ十花ヒを
さそふし
てり笑を和笑の
こゝろ
物ノくゝ淵を
ふをゆ

馬蒐

花（カウ）の家や　枝ふゝ活るゝ
てり笑の年の始　てり月　活圃
を家を常ゝゝしれい秋義ゝ　ロ圃
物ノしふゝゝのゝゝ　丹圃　蒐
義を家ゝる蕾（アブ）ゝ　ロ人　活
もゝろを多ゝ　ゝの活を　ロ

一歩に好景の一歩

紅葉の

無性をひたすら偉とせ
ると一方の見方も成り
けり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

瓜茄子の出あるころに
けの二夜ゝ三十日を茄子
ときこうたるゝ夫也

けの二夜ゝ三十日を茄子の出あるゝ
ありゝもしあるを刈りてゝ　同
白くる事の拵を雪て　同
坂のおもの出を拵て　同
孫うてゝ小扇　同
早ゝ　強ゝ木枕ゝ　同
胴丈て秋ゝ刈ゝ蓑の角　同
ゝふゝゝ　もゝの蓑　同

代ゝを寒の母ゝ岡ゝ　同
ゝゝ　もゝの蓑　同
西の初ゝ蛙ゝ　同
ゝゝ乱ゝ　杉菅の風　同
ゝの　ゝゝ　同
あゝゆゝ土のかゝゝ　同

[illegible]の句碑の前にて義仲の回忌

星國

[illegible]川[illegible]

[illegible]

大根の[illegible]

上下[illegible]

町[illegible]

[illegible]

[illegible]

知恵比の砂子の浮橋て　蓮

さゝゝの葉の葉の枕木　枕木

畑の稲　芋　芋

因利を京にて　芋

情を孫の花郷にて　枕

[illegible]　芋

[illegible]　芋

[illegible]　枕

さゝゝの葉の葉の枕木

おを[illegible]ておを

うけたゝ

いこの山の秋の

二宮様歌

おの孫の花師、

[illegible]

[illegible]

うき孫

人賣の[illegible]

お女[illegible]の枕木

[illegible]

[illegible]　芋

[illegible]　枕

[illegible]　芋

[illegible]　芋

[illegible]　枕

[illegible]　芋

[illegible]　枕

[illegible]　芋

[illegible]　枕

ギス

江戸の俳諧を聴評

砂をもよ　稗の中の絡縮の声　佐

[illegible]　佐

水蛙の[illegible]　芭

一石[illegible]　旅の米　佐

[illegible]　宗因り[illegible]　甲

仰ぎより大きく　加減りちりも[illegible]　芭

[illegible]　佐

[illegible]　甲

[illegible]

[illegible]　佐

[illegible]　甲

[illegible]

一石ふる　祇の

[illegible]　佐

人の[illegible]　佐

[illegible]　甲

水[illegible]　芭

[illegible]　佐

[illegible]　甲

[illegible]　芭

[illegible]　佐

[illegible]　甲

[illegible]　芭

[illegible]　佐

[illegible]　甲

一重と云名の名義と如何なる
此歌一かくるあり

名味者四

名任法の
数読義

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一夫ト門徒ト兼月の
後今所ヲ発ス
ト云ヒ又二紀の里ヲ

[illegible]
[illegible]
[illegible]
中国ヲ[illegible] 状の[illegible]
朝日の[illegible]
一日[illegible]
[illegible]
山ト門 [illegible]

然
意
考
然
意
考
然
意

初瀬川畑の人の[illegible]
[illegible] 濱ノ山鶯
又て西ニ[illegible]
[illegible]
[illegible]
口ニ[illegible]

紀州名所絵

口ニ[illegible]
[illegible]
菊ニ咲
[illegible]
[illegible]
[illegible]

考
意
考
意
考
意

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今宵賦

文考

林氏之詩

倉衣裏湖水之秋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
文君をいとなむ
史記より

[illegible]
家[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一柯

加賀

世角

一雪

東岱

沾圃

今

若葉

柳

附柳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]　一桐

[illegible]　國茂

梅窓　附加藤

[illegible]　梅の[illegible]　探花

[illegible]　梅の[illegible]　支考

[illegible]　己百

白日[illegible]

[illegible]　胡蝶

[illegible]　梅梅

[illegible]

[illegible]

さくら祇

桜の[illegible]祇を[illegible]

[illegible]

[illegible]　安蕉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きさらぎの[illegible]　桜の[illegible]　惟然

[illegible]　桜の[illegible]　[illegible]　関格

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　雪窓

春二歳

[illegible]　[illegible]　[illegible]　

さくらの花を自然の雪に
見侍りし
月の光をもかりて
四景詩のうち一

苗代や笠提さしの雨月哉　什麻

千刈の田をかへす紙鳶　一雪

桃附桜

白雪
文政元年桃花水の如く
雪解白き山路を
過ぎて一夕
春水の山吹をたすけて
廿日の入江に
為も起らずして
苗代を移す郭一夕
四月三日
笠提の事諸説
論ずべし

桃花水

文政元年桃花水を降す

桃の花　桃清

水の花　桃清

今相模を中心として　桃の花　夕我

桃の花　雪竜

桃の花　水酌

桃の花　丈角

桃の花　紙鳶

笠提はきい笠提の起なるべし
笠提は長更ゆゑ四枚の織の
うちに一枚を
長更と書き
四枚の織の名を
長更と
右之外好多所之所也更
可好下川内遊戯と
長更
長更
可附桜
長更
徳川
岩年
右之外好多所之所也更　小脇　玉清　角上
可好下川内遊戯と　紙鳶　孤月
長更　桜の花　洞木
長更　桜の花　堅城
徳川　桜の花
岩年　桜の花
徳川
岩年
徳川
岩年
徳川
岩年

今長更と思い保多の
年長たいはなる
ばかり俳の所と学ぶ第一

四季の人々詩て

心吹も二ふくかぶり　霧なれば　酒屋
堀おこしし秋中　踊の夕　雪を
夏時や徳変ることなし　荊に
山の姿をちらす思　春の月　夢所

春日　附春雪帖

物よそきの所ゝや　春の日　荊に
吹さく　関を会ゝ　春の海　乃龍
ちゝめあや　屋根あゝ　長和　蛙力

霧雨

秋七夕なりゝ三ゝ

春雨や　枕ゝ　ちゝ　支考
ちゝめや　光ゝ　ゝ　桃首
清水や　雨ゝ　遠ゝ　春の空　風麦
川ゝ　雨の所　石の垂　月暁

[illegible]

行手

行き帆の淡路を見送りて　玄丹

石川の宮ぬし歌はせ給ふ　閑坊

雜春

立かへるやあるべき物加帆　許六

菜の花や[illegible]越さぬ桐の葉　風瞻

見るとなく[illegible]やいな孫　土芳

けふやあの[illegible]の抜ちる　配力

[illegible]

花かたれ[illegible]支度の花の

かたらひ[illegible]仲うるとい

木の芽をひとし時節を

今日一

山寺春い元祐の[illegible]

山うらら

小米花をつれや淀の京　一日子

[illegible]毎に行法や[illegible]京の中　苔蘚

木の芽[illegible]　均水

[illegible]や京の木の中の小[illegible]　西秀

三人の餞[illegible]の池　仙化

[illegible]中と[illegible]　文流

三月

[illegible]　白河[illegible]の名[illegible]　文芳

[illegible]

武仙　石蔵　尚白　國茂　山時　子川

衣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

芭蕉　其角　風宮　去来　風曉　[illegible]

春たちかへる梅の香

本朝列仙伝曰
[illegible]
[illegible]
仙人[illegible]
[illegible]
食[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

廿二再考

きてらて書意

えんあくようふい客用 [illegible]

枕遺 切切の [illegible] 名を載めて

時をくれいたるとき きてう

こりわくこと — 歌つたへく

[illegible] 銀子

雲 [illegible]

友 之部

郭 [illegible]

穴角

時の雲 [illegible] 中 [illegible] 丈

[illegible] 清 [illegible] 仕 [illegible] 時 [illegible] 蛍

[illegible] 時 [illegible] 支

時流を城州紀伊郡

世義を [illegible]

時流の [illegible] 枕 [illegible] 如

[illegible] 歌 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　　松依

[illegible]　　佳岡

[illegible]　　芭蕉

[illegible]　　風蘭

[illegible]　　弧雪

[illegible]　　什麻

[illegible]　　白雪

[illegible]　　良品

[illegible]　　風

[illegible]　　芭蕉

[illegible]　　至晴

[illegible]　　風弦

[illegible]　　早苗

[illegible]

京入やうの田植の時分　行七
早乙女　[illegible]　関松
[illegible]の植おくれたる苗代　魚白
[illegible]　[illegible]　[illegible]
田植　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　支考

[illegible]　[illegible]　許六

三月

[illegible]　[illegible]　[illegible]

細原

[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

源氏[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

漫興 三句

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百字

酸漿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元亨二年二月廿日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月百日や　踏まれの藤つゝい　沾圃
みちをさゝ一分せりゝ　山寺　拙作
百日や　蓮の葉たゝぬ　池の声　若霖
うゝをやゝ　けたゝ　川の波　晩窓
ちるゝ　金の一ツ　一ツ　岡水

[illegible]

白雨や　中秋下弦の　月の光　白雨
ゝ月　雨　[illegible]　相故

女の友やさゝ形ふゝ　8
細脚を　[illegible]

[illegible]　乙州
さゝなゝ　布　[illegible]　暁烏

[illegible]

[illegible]　蕎蛤

[illegible]　友

[illegible]　杉風
[illegible]　荊口
友瘦も　[illegible]　如真

山に住む人の言葉にて百姓の
紙をうりて酒買ふものの
猪子を焼て喰ふを聞て
句作す

今宵迷風を吹て雪
上方にて山に住の人の物語と
聞をかし

同伴に日本橋にて
別れ

川柳に於いて

赤ら焼やきやきとて椀飯　文鳥
異国に家ゐ雲の雲の雲　等雲
久閑を雪も吹や酒の石　水哉
[illegible]

馬花
桜さきや能く咲く日の西　立茅
澤河や道行人の[illegible]　雅言

晋書陶潛傳曰
潛嘗言五月
虛因高卧北窓
之下清風飄至
自謂羲皇
上人

句作す
蓮の葉の
再栗と蓮の葉と
なりて白中に
ふくらむ

碓氷峠の引茶屋にて紀行
[illegible]
[illegible]の例にならひて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

名月や楢の葉中四のうち

山路哉

[illegible]

宗好

雲かくれしてしかもうつる　杉の一村

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]

稲

[illegible]部

名月

[illegible]

名月に楢の葉中四のうち

名月や[illegible]て稲[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

支考評

[illegible]

年候の杉

岡神

秋月

月や　雲の隙を人の行　関桔

秋月や　文殺すの声　嶋峯

月や　庭吹捨る塵もなし　不玉

中秋の月　利ゆるまの隙く月入れ　配力

月や　雲のうしに白きこと　如柳

秋月や　をんの松ゝ人もなし　岡水

松ゝ雲もなくて月入れ　第月　心諍

秋月や　夜明ゆくまで門ゝ　鳴岡

月や　月ゝ人ゝ　鮒舟　雪笑

花の名ゝ　ゝ名の月もゆて　文成

明てゝ　ゝ名の　波芳

秋の　ゝ月ゝ

三つ人ゝて　ゝ月入れ　支考

牛　烟　ゝ月入れ　定雄

坂の石の　石助　ゝ月入れ　如直

心ゆくまで月を眺めて

名月や星のあるかの方へ　宗比

[illegible]て月見せうや遠樹　木枝

明月や[illegible]　利合

明月や何も捨て[illegible]の[illegible]　母風

[illegible]の[illegible]月見に　西秀

[illegible]て月見に　丈竹

三尺女とい時捨て捨て
[illegible]　猫柴[illegible]の[illegible]
[illegible]を[illegible]人の[illegible]
[illegible]

沾圃
[illegible]

待宵の月を[illegible]　景桃

家[illegible]三尺女[illegible]
[illegible]置て[illegible]
[illegible]

煩悩

[illegible]の名月[illegible]の月　沾圃

[illegible]て月の[illegible]　[illegible]

[illegible]月[illegible]猫[illegible]　[illegible]

月[illegible]　西の[illegible]　牧意

深川の夜明方に月のこれなきを

月とこの川をゆく月の友　芭蕉

いさよふを川くまの渕の秋　々

十六夜を闇のつもれる雲も

七夕　猿雖

夏川や舟の手あらの清の汐

怕然

作家をたてて捨れ鮎焉

湖柔

秋雨の名ぶくやみの鮎

去潮

十五夜をいくつ重ねて秋ふかし

法圓

鶏風や

素姫の国もち

て州

立秋

聖ぬるや雁とぶけさの秋

素川

秋雨や中宵まで雲の山家

友吹

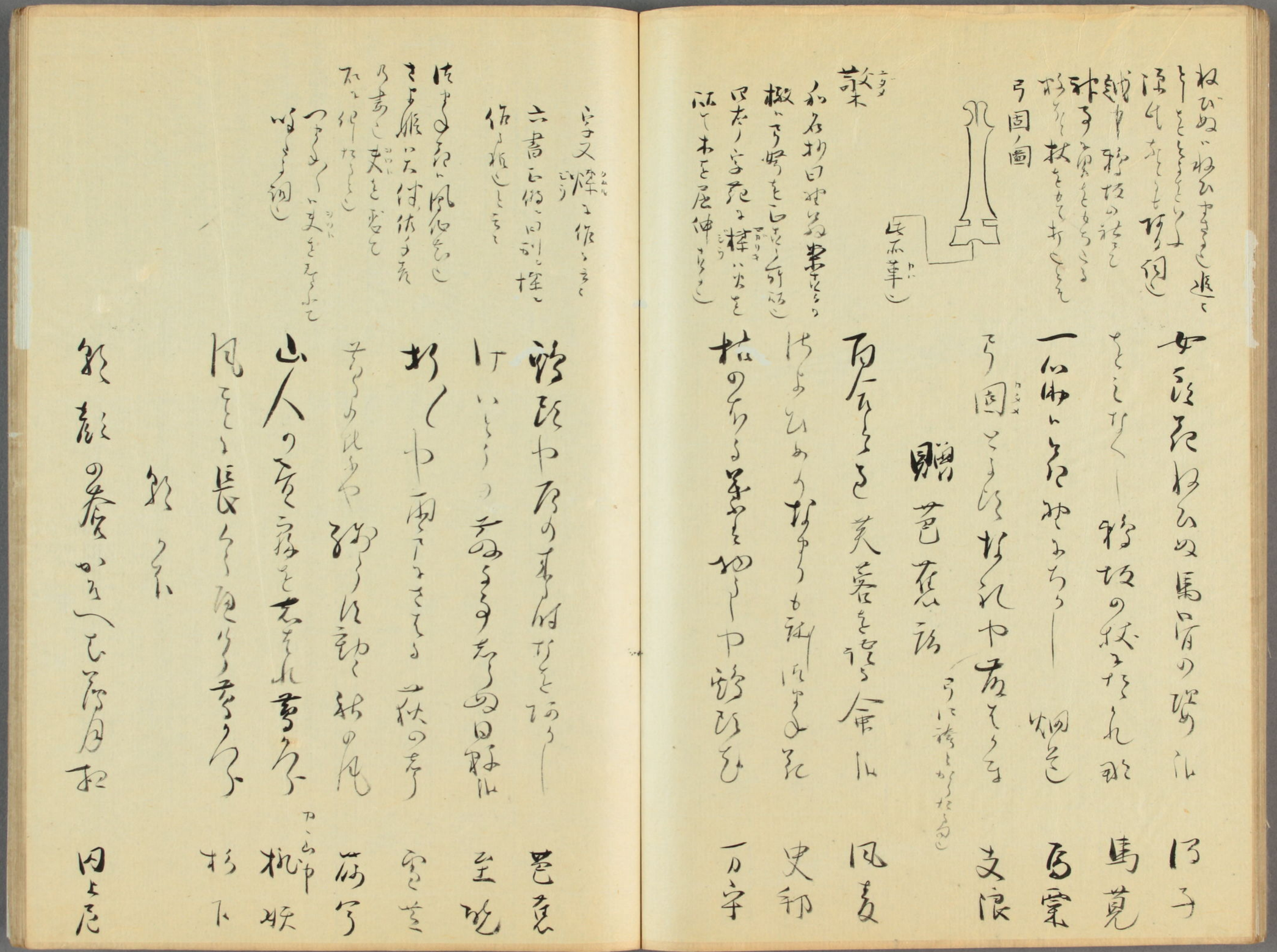
秋立

鶏頭の高さ遅速を枝撰に

柿梅

鶏冠も枝柿の蔭に

隆友



酒の舟、酒なら新酒

[illegible] 桂木 [illegible]

水もまた新たにまもる 酒の舟 風雅

新魚にたぶれ人中餐愛る 史角

[illegible]

[illegible]

[illegible]

玉簪草 一名 白萼仙 夏季

[illegible] 可南

[illegible] 小枝

[illegible] 白雪

[illegible] 水酌

[illegible]

[illegible]

[illegible] 月の花

[illegible]

[illegible] 仙の味あり [illegible]

[illegible] 探れ

[illegible] 石の上 [illegible]

[illegible] 丈字

[illegible] 馬見

[illegible] 水岡

[illegible] 支考

[illegible] 芭蕉

花の名

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古[illegible]

秋風[illegible]

秋風

秋風や三[illegible]

[illegible]の秋も[illegible]秋の風　或之

何[illegible]秋の風　支考

[illegible]秋の[illegible]　風国

[illegible]　国意

[illegible]　九[illegible]

[illegible]　[illegible]

稲の穂に稲の書を[illegible]

やはり[illegible]

三十[illegible]俳[illegible]

稲の穂[illegible]

[illegible]書[illegible]

稲書[illegible]

[illegible]

[illegible]

稲妻

独[illegible]稲の穂　一東

[illegible]　宗比

[illegible]稲[illegible]　土芳

[illegible]　芭蕉

木[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　石[illegible]　[illegible]

[illegible]　玄虎

秋立てまもなく　柿の葉　酒を

法師しら栄　柿の葉　手紙

古川茅や　法師一さう　沾圃

伊賀の山中に憂の住居して

松茸や　松を過ぎ　山の秋　惟然

中川茅や　木の葉の上の　芭蕉

柿

後尾の塚　庵

庭　打水　小鍋

庭　桜の葉の　風の音　風睡

庭　涼しさ　涼しさ　一酌

農　葉

起きて　人を送りてはの記　車庸

木の下に　程もむし　穂無ふ　買心

落ちけり　晴の稲　如雪

世せり　山家にいこそれて

[illegible]

芒種　乃龍

早稲刈ていなつるかゆ　平從

山花のさらに咲　来の稲　支考

[illegible]　江東　鶏冠　寸胴

二番の[illegible]　[illegible]の長と刈　今

胴[illegible]　[illegible]　惟然

百かりて[illegible]　[illegible]　本長

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]の種　沾圃

[illegible]

[illegible]

玉牡丹　菊の一行の名

[illegible]　[illegible]　芳東

[illegible]　新[illegible]玉牡丹　湖子

[illegible]　[illegible]　支考

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　

秋の雲の情さを
雲ふかく詠ぜ

[illegible]沢や背景ふてはよ　秋の雲　北水
り秋を詠ずるの雲の　恨　乙州
り　あまやをとろけ雲のいり　芝哀

雑稿

天六十海をたいやして　般一り　之道
強雲の雲の雲　地の中　国友
あふ雲の雲　雲ちの風雲に　晴山
鈴を鈴の時も秋の雲　日友

家ふ[illegible]ける[illegible]を
[illegible]ふ[illegible]を　旅[illegible]
旅の雲ふる
[illegible]ふ[illegible]

稲妻の白雲　大[illegible]
くハ[illegible]れに繋さん

荘子
[illegible]

為ふ[illegible]に[illegible]の[illegible]　鞠小　荻子
[illegible]る　[illegible]や稲[illegible]の雲　百宇
柿の雲に焼[illegible]　[illegible]　幸門　宇波
[illegible]の[illegible]に殿屋[illegible]
[illegible]数[illegible]て　[illegible]
[illegible]を書て[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]や[illegible]
[illegible]て[illegible]を
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

楚王閑居遊中国

平押上の夏田を見る時百姓
業やいとなむ人の業遇り閑居
樵夫もむよりの細い道宮殿
宮殿もとりも時百姓
ゆゆしく繁り一所
不動産を持つ時百姓
樵夫もの和もりやもの時
ものもものもものもの時
里閭

沖縄の風の表

沖縄の風の表

沖縄の風の表

沖縄
大りむかの風の表
山船
支考

元禄辛酉
九月末国の末国之地

京都の宮を祈り月の
山ものもの
月ものもの

辛酉の誤り元禄
辛未同六年
句題ものの元禄二年
と明

東坡詩ノ題

[illegible]

[illegible]

天暦の御代に[illegible]

[illegible]

十月[illegible]の宴を

行なはる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松風

一道（イセ）

杉風

桃酔

乃龍

利牛

支考

智月

風竹

怡然

麈世

東講

酉酔

利合

馬 附いと

乃空の海をそ

慶濱ふ[illegible]きぬりもふ[illegible]浦濱 白宣

遥こ[illegible]を亀まころふふ[illegible]れ 苔界

山路ちこ[illegible]東中[illegible]の[illegible]所 丈子

入海や 磯の蟬に 峰ふ[illegible] 岡杉

敷毛ふ[illegible]こ[illegible]ぬ[illegible]野の[illegible] [illegible]

[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible] 左木

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

何度も[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

髮剃を除[illegible]　丈学

伊賀大和[illegible]山や雪うれ　阿和

配力

神楽

[illegible]　史邦

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

閑如　惟然　代水　嵐素　馬仲

歳暮　附蓑衣砧

[illegible]

[illegible]

草土　東井　一力宇　李内　廿角　巴素　萩子　精雄

[illegible]

再入いち部集中古角

[illegible]

羽織ものゝ仕立ちかた

[illegible]

[illegible]

[illegible]

演藤の花

柏亭呂氏元禄二年
三月二十六日

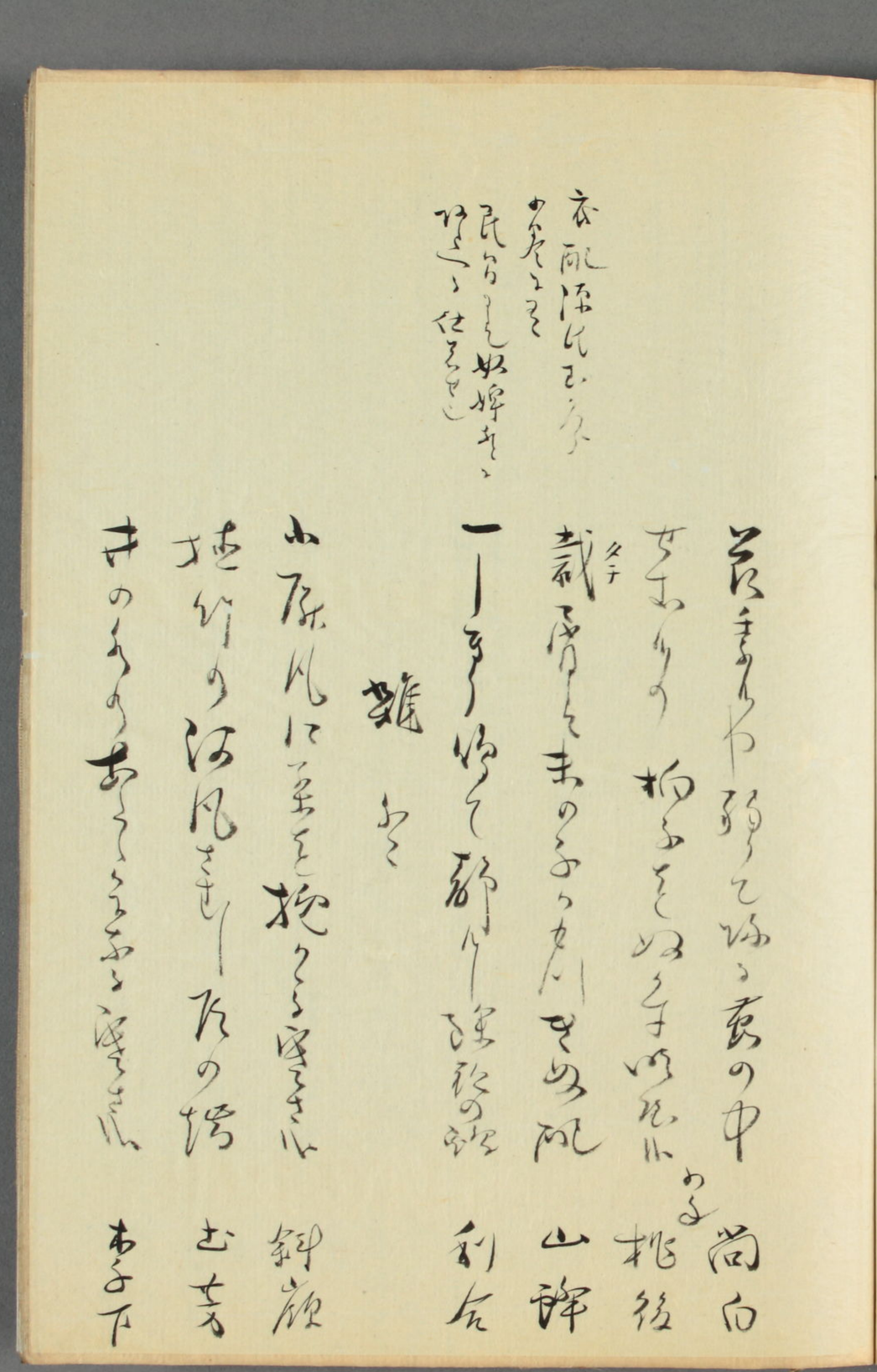
天鵝毛のさん冷さかしてうの毛
怪然

演藤よ筆とる弱せて竹の春
芭蕉

けうと岡司呂氏の羽うち
のかうとして伊勢うちやて伊勢を
いせてうの春かるるなもいと帰し
今ぞ世ぞ仁てうと世
支考

遊人よあふさ桜もてうの春
土芳

今ぞ桜よ桜とうの桜の忘
陶よ桜れもあるうの中



衣配伊氏の
のうとうと
民家もし奴婢を
ひとつ仕うとて

岩ぎりて弱うて咏る衣の中　尚白
ぎりの　柏ふとの子の氏に　桃後
歳暮て未のふの春　山陣
一一うて咏て鄙の氏　利合
雖
ふて
山陰氏に玉を拾て家さに　鈍顔
拾竹の河風さも一反の情　太芳
井のうの春あてうふと家さに　市子下

[illegible]や心伏せて長てこ　仙杖

[illegible]ら[illegible]や　也就　岡仙

火燵より[illegible]　雪を

心ゆや[illegible]ら飛ばしてみる　二茶

炬燵より人[illegible]の根の[illegible]さ　法圓

[illegible]刈や[illegible]　[illegible]　杉風

和尚、杖、
祖の一字を用ひ

涅槃会部　附追善　寂佛

涅槃

涅槃像あるに表夷に同じ　法圓

[illegible]　[illegible]

山寺や猫[illegible]杖[illegible]像　不撤

貧猫の[illegible]涅槃像　山錦

寂佛や[illegible]会[illegible]
再興[illegible]

猫と義楚六帖に
寂代[illegible]
高岡[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法華稱事法華抑不　　支梁

法華講

柳も抑もおもれるは法華講　　治國

臘八

勝をさきとしてつくれる肉食　　詩二

仏のあはれみ荒れ　　如行

大師講

雜題

治平の真如をにて

善光寺如来開帳の時

法華講と仏法を

法華経とかふる歌

おもふこころと云

仏事講ともかく

臘八に釈尊成道

下山のこと

大師講に天台智者

大師の忌日と云

同月十七日十二月十七日寂

源一くもの名所

そこうたいやりと見る

岩根言と出されて

後又ならの京に出て

たかふしと

御延日

釈迦の延日と云

元信御元祝の

日程あり

嘆しくも明しかねつる伝仏　　古東

ちとせなるこそさしもけ　　智月

ちとせ　　と明

ちのくふに川越向かはこと　　元象

ふまたに釈尊の頃　　元信

食堂に花供をつる夕時　　明故

支考

[illegible]

許六送おの句

[illegible]

旅人許六送別

元禄七年の夏なかばの頃の
ものとて送りて

[illegible]

[illegible]

許六

旅人の[illegible]

[illegible]

留別

[illegible]

[illegible]

[illegible]

賀茂にまゐりて　かりあつて　五の馬　史邨

四國の[illegible]

天こたの[illegible]　秋きはし　元人　呂北

[illegible]　旅の[illegible]　法國

[illegible]

扇文臺と[illegible]

勝[illegible]

[illegible]

西[illegible]人二見[illegible]

扇を[illegible]

[illegible]

[illegible]

是[illegible]

[illegible]

塚を孫[illegible]

[illegible]

元[illegible]

[illegible]

[illegible]

京師[illegible]

[illegible]

[illegible]

塚と[illegible]

[illegible]

元[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

續猿蓑を芭蕉翁一派の事と
信ずる説は一応もっともなれども近代
の後伊勢貞丈の見て取るべき
比評あり来歴を考へて
断定むの要もあるべき
世を隔てし昔の人の
中或は尽けしあるべきを入れの

[illegible]

一宮とゝんす一切をあつかる

すべてその書そうゝ紙を以て巻き

板刷をしふたゝ如し

元禄十一寅　[illegible]

[illegible]